

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



春本番、咲き誇る桜
(4月10日 大教会神苑で)

立教175年
4月号

おぢばに心をつないで

春の学生おぢばがえり開催

立教175年「春の学生おぢばがえり」は3月28日、親里で開催され、笠岡学生担当委員会(吉岡誠一



近年、それなりの参加者数を誇る笠岡学生会

学生会

郎委員長)から35人(内、同担当委員12人)が参加した。

今回は「世界の友にをやの思いを—おぢばに心をつないで」をテーマに、東日本大震災被災地の復興と、一人でも多くの仲間たちとおぢばに帰れることを願い、お願いづとめを勤めさせていただこうと開催の徹底を呼びかけてきた。

午前9時から本部中庭を会場に、真柱様ご夫妻のご臨席のもと式典が始まり、真柱様のお言葉をはじめ、同おぢばがえり実行委員長の挨拶、会員の体験発表、本部学生会新委員長の決意表明などが行われ、最後に参加者全員でテーマソング『灯〜Akari〜』を大合唱し終了した。

式典後は、直属教会ごとに「直属アワー」が行われ笠岡学生担当委員会はウォークラリーを実施した。参加者を5つのグループに分け、本部第1食堂前を時間差をつけスタート。コースは神殿—記念建物—憩の家周辺—商店街—天理プール—真南棟—丹波市—笠岡詰所。途中、チェックポイントが設けられ参加者は知恵を出しあいながらクリアしていった。ゴール後、詰所でチェックポイントに関する質問があり1位、2位グループには景品が他のグループには参加賞が渡され、会員同士の親睦を深めた。夕づとめ後、本部東西泉水プール前広場に会場



楽しそうにウォークラリーに興じる学生たち

を移した後夜祭が催され、同委員会からは「ひるぜん風焼そば」が出店された。今回、初めての試みで看板、タレ作り、食材購入など困難な面はあったが会員の協力もあり、大盛況。反面、価格設定に課題が残った。

ウォークラリーには「はっぴすと」—本部学生担当委員会発行の月刊誌—のカメラマンが行。参加者は同誌に記事、写真が掲載されることを期待していた。

学修(大学の部)にも参加
 学生生徒修養会(大学の部)が3月3日から9日まで親里で開催され、笠岡大教会関係から上原修さん、カウンセラーとして上原繁次さん、北川祥江さんが参加した。



苦勞の甲斐あって大盛況の「ひるぜん風焼そば」

その後、式典に移り、まず育成会長様が「おつとめは一人でするのではなく、皆の心が揃ってつとめることが大切で、親神様は一手一つの心を受け取って平和な世界が訪れるようお働き下さるのです。大教会では、教祖130年祭目指しておつとめをする人を一人でも増やしていこうということ

少年会員による雅楽演奏で祭儀式が始まり、祭主、山野大地君(上下分)が「毎日、明るく元気に通らせて頂けるのは親神様のご守護のお陰です。教祖130年祭に向かう今、教祖にお喜び頂ける様な心遣いや行いを実行して、道の少年会員らしい歩み方をさせて頂き、立派なよふぼくに育ちます」と祭文を奏上。
 引き続き、おつとめまなびがつとめられ、座りつとめ、てをどりの各下りをブロックごとに役割を決めて真剣につとめた。

少年会笠岡団(中島誠治団長)は4月1日、同育成会長様(大教会会長様)を迎え、大教会でおつとめまなび総会を開催、育成会員を含む543人(受付数)が参加した。

「立派なよふぼくに育ちます」

おつとめまなび総会開催

少年会



真剣につとめられたおつとめまなび

合言葉に努力しています。人をたすけるのはよふぼくです。17歳になって別席をはこび、おさづけの理を頂いてよふぼくになるのです。少年会はよふぼくになる為の活動だと思っております。おつとめをつとめ、おさづけを取り次げ



わかぎ門出式の参加者

るよふぼくに育って欲しい」と少年会員への期待を話された。
少年会の誓い、少年会の歌斉唱。そして「わかぎ門出式」が行われ、中島団長が「皆さんは『わかぎ』を卒業して育成会員になります。いろんな

ことに夢を持って進んで下さい。そして自分の行動に責任を持って下さい。17歳になったら必ず別席のお話しを聞いておきづけの理を頂いて、よふぼくになって欲しいのです」と激励。門出者22人に記念品を渡した(名前は記事末に記載)。鼓笛お供え演奏も行った。

式典後、参加者はブロックごとに出された模擬店で昼食。中庭ステージではアトラクション、講堂などではゲームが行われ、最後は総会参加の少年会員による抽選会が行われ、賞が決まるたびに大きな拍手が起こり楽しいひと時を過ごした。

わかぎ門出者は次の通り(順不同、敬称略)

- 上原孝(笠岡) ○田中舞(福山) ○田中芽生(福山)
- 武内智(高屋) ○門脇理教(島根) ○片岡雄貴(陽備) ○片岡諒介(陽備) ○吉岡やよい(興明) ○吉岡美月(興明) ○吉岡寛太(興明) ○国定舞(新山邑)
- 日南住唯(上下) ○原田陽香(上下) ○村上仁美(葦陽) ○岡崎元輝(福勇) ○藤井成人(福富士) ○服部晃平(福富士) ○浜田賢人(坪生) ○瀬藤晶帆(大恵山) ○瀬良和歌子(高兒島) ○渡邊綾香(品治)
- 丸山隼人(木津和)

鼓笛講習会も

笠岡団むつみ鼓笛隊は3月30日から4月1日までの2泊3日間の日程で、大教会で鼓笛講習会を開催、約100人が参加した。



ステージ一杯に繰り広げられたアトラクション

参加は直轄、福山、高屋の各隊。期間中、おつとめまなび総会のおつとめ練習を始め、こどもおちばがえりのテーマ曲を中心にパート練習、合奏を行った。講習の成果を、おつとめまなび総会の式典の中でお供え演奏した。

温故知新

いきいきレポート 12

初代会長の卓見と都会布教

明治二十四年十月十一日、笠岡支教会が設立されて翌年、正月に入り、九百五十数戸に達した講社を地別に第一号から第十号までに区分し、それぞれに講元を配して世話取りする事となった。

昨年笠岡では創立百二十周年を迎えたのであるが、今年には分離陞級した玉島大教会をはじめ、福山・高屋・神邊が百二十周年を迎える。笠岡の教会設立の翌年に部内教会が四力所誕生するのは珍しく、当時如何に笠岡の教勢が素晴らしかったを反映するものであるが、それにもまして、この教勢を地別に分割し講元を配して修理丹精に当たらせた初代会長の思いに、私は頭の下がる思いがする。初代は女性でもあり、当時の社会的常識からすれば、会長に就任する事も大変な時代でもあったにも関わらず、寄り来る人々の中から、これと思う人々を定めて地域別の講社を設けてその育成に携わらせた事、やはり並の人ではないという気がする。

ちなみに第一号から第十号までを記すと以下のようになる。

- 第一号 笠岡を中心としてその付近
- 第二号 玉島を中心に東西数里の間
- 第三号 鴨方、占見方面
- 第四号 縣主、稲木方面
- 第五号 金浦、陶山、福山方面
- 第六号 高屋、御領方面
- 第七号 神辺以北の備後西北部方面
- 第八号 新見、熊谷方面
- 第九号 島根、鳥取方面
- 第十号 津山を中心とその付近

この中で二、五、六、七の講社が玉島、福山、高屋、神邊の名称となつて、明治二十五年十月二十四日、四力所同時に布教事務取扱所として設立されるのである。

その後、島根・鳥取方面の道、第九号講社の修理丹精に向けて、先ず養嗣子・上原伊助を派遣、続いて浅野彌三郎氏を派遣し、現地での布教推進を図った。

これと共に、今で言う都会布教に向けても、初代は並々ならぬ思いを持っていた。大阪で生活しておられた事もあると思うが、将来を見据えて笠岡の教線がこのまま笠岡を中心とする地

域に固定してしまつてはとの思いがあつたのであろう。現に明治の時代から都会への人口流動は始まり、その中信者子弟が東京、大阪をはじめ大都会へ転住する傾向はあつた。明治四十年頃、岡崎時之祐氏が広島布教中を笠岡の事務教務推進のため帰つて来た時、「それでは私が・・・」と言って初代は広島市へ単独で布教に向かった。ほんの一年程の事であるが、初代は寄りくる信者の丹精に着物から何からすべて捧げ尽くして裸になつてしまわれたという話が残っているが、その苦勞があればこそ、今のひろさと分教会の道がある。この度漸くにして広島市の段原地区の再開発に伴う地区画整理事業が終わり、ひろさとは、換地を確定して、いよいよ移転建築に取り掛かる。思えば初代の思いが戦前戦中戦後の長い苦難を経て、ポツと芽を出し、漸くにして腰を据えた広島布教ができる事となつたと言えるのではないだろうか。

神戸布教、東京布教また岡山布教、都会へ向けての布教をしなければという初代の思いは、笠岡という田舎にのんびりとしていては強い思いがあつてこそと思う。神戸にせよ東京にせよ岡山にせよ、道半ばで節に出会い、どうすればいいのか、という時には必ず誠的に確な

アドバイスをして、それぞれの地での道が大きく伸びゆくように配慮してくれている。

もし、という言葉がよく歴史の上で語られるが、もし笠岡が十号の講社を策定することなくのんびりと歩んでいたなら、今日の教勢はないであろうし、初代の都会布教への強い思いがなかったら、笠岡の道はもっと地味なものになっていたのではないかと思われる。今、創立百二十周年を終えて「温故知新」の思いを強くするこの頃である。

(笠岡史料部長)

雅楽勉強会 開催

3月24日

雅鶯会

雅鶯会では3月24日に恒例の雅楽勉強会を開催しました。これはそれぞれの教会で祭典の祭儀式などで奏楽を奉仕する人材を育成するための主に初心者、初級者の勉強会として計画され今年で4回目となりました。

今回は午前9時から昼食を挟んで午後3時半まで各パートに分かれての練習と合奏練習をしました。春休みでもあり大人3人と少年会員15人の参加があり、みんな熱心に取り組み、最後の御供え演奏では短時間の練習とは思えないほどの素晴らしい心を合わせた演奏ができました。技術の習得はもちろんですが、何より他の楽器の音色を聞いて自分の音を合わせるといふ人を思いやる大切さを学んだのではないかと思います。なお、講師として忙しい中9名の大教会雅楽奉仕者がおつとめ頂きました。ありがとうございました。

(雅鶯会楽長 中島 誠 治)

昨年の勢い

そのままに！

一ヶ月隊募集

青年会

日頃は、青年会活動にご理解とご協力頂きまして、誠にありがとうございます。昨年、青年会では、毎月ひのきしんを実施し、のべ300人近い参加を頂きました。また、おやさとふしん青年会ひのきしん隊(1ヶ月隊)へは、皆様の声かけにより、大目標であった14名(本部からの割り当て人数)での入隊を達成させていただきました。昨年、14名にこだわったからこそ、14番目に

参加を決めてくれた方が、期間中に初席を運ぶなど、定めた心に対する不思議なお働きを、様々な場面で見せていただきました。「昨年1年だけ14名を達成したからそれでよい」という事では、いわゆる「打ち上げ花火」に終わってしまいます。やはり、どんな状況にせよ、続けるという事に意味があるのだと思います。

さて、本年のひのきしん隊の入隊月は、昨年と同様に6月となっています。6月は、こどもおぢばがえりの準備ひのきしんが中心となります。期間中は、ひのきしんの他、てをどり・雅楽・祭儀式などの修練、月次祭まなび、感話大会、にをいげなどが行われます。また、同じ班になった方々と信仰を語りあったり、お世話をさせてもらう中に、ひのきしんの態度や、思いやりの心が自然と身についていきます。わずかに24日間ではありますが、おぢばで伏せこむ間に、心の向きが神様に近づく事は間違いありません。昨年の入隊者も、何かしら心にお土産を頂き、喜んで国々に帰ってくれました。

大教会では教祖130年祭にむけて、「おつとめ奉仕人の増員」を掲げております。この目標達成には、「丹精」や「育成」という言葉が、大きく関わってくるのではないかと思います。青年会員の年齢層が、16歳から40歳であることを考えると、1人の人におつとめ奉仕者になっていただくため

には、大変重要な期間ではないかと思えます。つまり、青年会の活動に参加する、参加を促す事も、「おつとめ奉仕人の増員」に向けた道の一つであると言えますし、ひのきしん隊は、まさに「丹精・育成」の場でもあります。

どうか身近な方に、また、「あの人にお道の教えに触れてほしい」、「あの人にたすかってもらいたい」という方がおられましたら、お声がけください。各ブロック教会10名称につき1人の入隊をよろしくお願いたします。

(青年会笠岡分会

上原繁次)

『おやさとふしん 青年会ひのきしん隊入隊募集』



おやさとふしん青年会ひのきしん隊は、おやさとやかた建設の上に若い力を発揮したいとの熱い思いのもと、今から半世紀以上前に発足しました。

隊員は、おやさとでひのきしんに汗を流し、にをいがけ、おつとめ練習などの修練活動に励みます。おやさとに伏せ込んだ尊い経験は、国々所々での大きな喜びとなって必ず芽ばえてきます。

*** 入隊要項 ***

期 間：6月1日～24日

入隊資格：所属教会長が推薦する者
(16歳以上)

携 行 品：着替えなどの日用品、筆記用具、
保険証、ネクタイ、カッターシャツ、
スラックス

宿 舎：第百母屋

詳しくは、0865-66-3349
青年会笠岡分会 上原 繁次 まで



目指せ、入隊14名以上!

天理教青年会笠岡分会

<http://kasaokabunkai.main.jp/>



東日本大震災 救援活動 第3隊

出動

第3次隊は、4月5日～8日の日程で出動。以下の7名が参加した。上原志郎・上原浩・森本忠善・上原繁次・樋上謙二・中村剛史・佐藤和代。

この度はいわき布教所の現況が落ち着いているという連絡を受け、宮城県で教会長さんが手付かずの場所に入り込み、町の復興に着手されている



ほとんどが流されてしまっている

宿舎からの風景

という情報から宮城県亘理郡山元町に行かせて頂いた。町全体が全て津波で流されて被害がとてむひどかったと聞いていたが、マイクロバスで到着すると、その有様は想像を絶するものであった。古い建物は全て流され、新しい建物は1階部分が無く、柱で2階部分を支えている状態の家が点在していた。その中の電気水道トイレもない民家で初日宿泊させて頂く事になった。

町で600人が亡くなり、再び津波が起けると災害がひどいと予想されることから半年間立ち入り禁止区域、現在は居住区域外に指定されていて、県からは居住に関しては一切援助なしになっていた。そんな町での作業は、その会長さんの所へ依頼に来られる家の取り壊しであったり、大工仕事であったり畑の再生である。私達は家を津波でなくし、家を取り壊した後の土地で畑をしたいという依頼から畑の再生ひのきしんをさせて頂いた。吹雪と突風の中、二日間させて頂いた作業は町全体の復興からみれば微々たる歩みであるが、それでも何とかこの町に住みたいという思いで帰ってくる人達から見れば微力でも心の励みになってほしいと願う。大教会に心寄せで集まったお米110キロと被災地へのメッセージの入ったふきんを、2日目に仮設住宅(120世帯が居住)へ届けさせて頂き、遠い中国地方からの思いを届けさせて頂いた。三日目に、残ったメッセージ入りふきんを戸別訪



畑の再生のための作業風景

問させて頂き全員で配らせて頂いた。午後から名取市に住む上原聡氏家族がひのきしんに合流。夕刻入浴後お宅を訪れ全員で夕食をご馳走になった。遠い地で笠岡の教友と共にひのきしんやにをいがけに汗を流す嬉しくも不思議な時間を過ごさせて頂いた。

片道1200キロ、16時間という距離。会長さんの思いに今回たすけ心で参加した人達だけでなく、お米など心を寄せて下さった人達、隊員の生活用品、食事など準備して下さいました人達、多くの方々の真実によって行かせて頂いた事、心からお礼を申しあげます。有難うございました。

救援活動に参加して

金浦分教会万能倉布教所長

樋上 謙 二

四月五日(木)午前六時四十五分、笠岡大教会をマイクロバスで出発、宮城県山元町に到着したのは同日午後十時二十分過ぎでした。

現地では九か月以上継続してひのきしんをされている本部直属の下野分教会の十九歳の信者Aさんに指示されるまま、一階が津波の被害に遭った住宅の二階に案内されました。

長旅の疲れもあり、0時を過ぎたころには熟睡してしまいました。

翌日、東の空が明るくなった午前五時に目覚めて、自分達が、どういう状態の場所にいるのか、初めて気付きました。

昨年三月十一日の大震災以降、繰り返し何十時間もテレビで見ていた風景が眼前に広がっていたのですが、現地に立って見て、テレビの中の風景とは全く異なることに気付きました。私の視野の中に人の姿はおろか、人の気配さえないという異様な光景が広がっていました。初日に泊まった被災した住宅は二週間後には解体する予定だと聞きました。

二日目と三日目は、ひのきしんで修繕した牛橋区民会館で宿泊しました。

今回のひのきしんの内容は、二日間とも地区住民Bさんから要請のあった畑の再生でした。

Aさんの説明によると、現在、住宅の解体・畑の再生など二十一件の作業の要望があり、追いつかないということでした。

現地に到着するまでは、「畑の再生」というのは、津波の被害があった畑に塩分を除去する薬剤か何かを散布するのかと思っていました。しかし、実際のひのきしんの内容は、ウンボーで一メートルくらい掘り下げて、土の中から出てくる「もの」を選別して種類ごとに山を造るという作業でした。



救援物資を前に、宿舍の公民館で

た。竹林の址らしく竹の根の間に腐食した金属棒、ガラスの破片、食器の欠片、瓦の欠片等々・・・が、ザクザクと出てきました。

四月だというのに、西の山から猛烈な風が吹き、雪が舞うという瀬戸内の温暖な気候に慣れている身には、真冬でも滅多に体験できない悪天候の下、黙々とひのきしんを続けました。

ひのきしん二日目の土曜日には、辺りの住宅に人影が見えませんでした。そこで、手分けして「にをいかけ」をしました。一軒目の玄関先で対応していただいた女性から「私は、仙台で避難生活をしています。週末には、この家に戻って作業していますが、『ひのきしんさん』・福井先生には本当にお世話になりました。『ひのきしんさん』が、私の自宅に溜まった泥を外に出して、庭も洗い流してくださいって、ここまで綺麗になったのですよ。『ひのきしんさん』には本当に感謝しています。」と感動と感謝の言葉を頂きました。

田畑で作物を育てることができるようになるまでに、どのくらいの年月が必要か想像さえできません。二十年や三十年では、とても再生できないのではと思えるほどでした。それほど広大な面積の被災地が、ほとんど手付かずの状態、自動車や倒木などもゴロゴロしていました。

自然の猛威の凄まじさ、人間の無力さを思い知らされた山元町でした。



救援物資を届けた避難所の前で

でも、救いは『ひのきしんさん』の素晴らしさが根付いていることでした。
 自然の猛威の前には、目糞鼻糞ほどのことしかできませんが、チャンスがあれば、また、ひのきしんに参加させていただきたいと思いました。

潮の匂いのするひのきしん

芳井分教会長夫人 佐藤 和代

「えっ？ここに泊まるんですか？」思わず、皆そう言った。到着後、向こうのスタッフの案内で

真っ暗やみの中案内された家の様子を見て年甲斐もなく少し幽霊やお化けを意識してしまった。電気、水道、トイレがなく、懐中電灯とタンクの水だけが頼りであることがすぐに分かった。とにかく夜遅い、何とか早く寝ようとしても、怖い、この家の住人の人は無事だろうか？もしかして・・・などと皆で話していたら余計に目がさえてなかなか寝付けず、隣の部屋から聞こえる誰かのいびきさえ、人の温かみに感じながら何とか朝を迎えた。

朝一番にすることは、トイレ探し、辺り一面見渡しても特に何もなく、数件の民家が何とか形を残しているがそのほとんどが、私たちがお借りしている民家のように一階は津波のため人の住める状態ではなく壊す時期をうかがっている状態のように思えた。

やっと、世界で一つだけのマイスポットを探しなんとか用をたせたが、海から800メートルでほとんど家のないここでは、隠れる場所も少なく、警戒しながら妙な動きをするおばさん：だったろうな？と自分でもおかしくなった。

ここへ来るまで十六時間マイクロに揺られながら、私はぼーっとしながら家族のことを考えていた。家族から見た、私：「ここまでは頑張った！けど、ちょっと休憩したいなあ。でもお母さんだしなあ〜嫁だしなあ〜」そう思っていた時に主人

が「災救援隊があるよ！时期的には大丈夫だから」と言ってくれたので、「私が行っても役に立つはずはない。」と分かっていたながらも、来てしまった・・・いつものことながら女伊達らに、と言われてしまうのは分かっていたが、私だけのトイレを探し用をたした後、「ここでは、何でも素直に楽しく感謝のある数日を送れそうだなあ」と感じた。人生でふと立ち止まりたい時、休憩したい時は、青空の下のトイレすべてかいケツ。かもしれない。

本題のひのきしん作業はとにかくシンプルなもの



吹雪の中、山元町の復興を願い
 よろづよ八首をおどる

のでひたすら、スコップを手に土を掘り、竹の根のようなものを掘り出すもので、丸二日、時折降る雪の中を黙々と作業したのだった！時々突風が吹き、目が開けられず口の中にジャリッと砂が入ったが、潮の匂いのあるこの作業地が先々どんな畑になっているのかな。と話しながら、ひたすらゆっくりとした作業時間が流れて行った。

震災後一年以上もたち、「少しずつ復興しているんだらう」と思っていたのだが、実際私たちが行った宮城県山元町はあの時のままの景色が数多く残り、人々もまだ仮設住宅で過ごしている。



東北に住む笠岡の教友宅で

この町は民家を再生させることを目標とした復興は難しく、農地として復興を目指している場所の様で自治体の動きを待つばかりでは手つかずが現状の様だった。

そこでボランティア団体「ひのきしん」(本部直属下野分教会)……今回お世話になっている……が住民の希望を伺い全国からのひのきしん希望者との橋渡しのような重要な役目を果たす拠点を9カ月も前から作っていたと聞き本当に素晴らしい事を実際にされていることに感動してしまっただ。

三日目に行った仮設住宅で、笠岡の皆さんからのお米・少年会の皆さんからのメッセージ入りのお米・ハンカチをお渡ししたが、本当にうれしそうに、「ありがとう、みんな、平等に分けます」と言われていた。また、そのあと、現場のご近所の方にもハンカチを持ってそれぞれが伺ったが、どこのお宅も私たちが「ひのきしんさん」といって本心に心から感謝して下さっている様だった。あの日の様子の写真を見せて下さったり、仮設から一年間毎日通って家の修理をしたこと、あの日流された犬が2週間して自力で帰ってきたこと……いろんな話を伺いながらこの「ボランティア団体ひのきしん」がこの山元町の一部として信頼され、今を動いていることに強く感銘した。

「帰ってきてわが子供の始業式、入園式、入学式と教会の祭典といつものようにバタバタと数日が過ぎた。帰ってきて末娘の第一声が

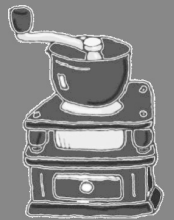
「お母さん、楽しかった?」:「うん。楽しかったよ」私は笑いながら答えた。多少何をするために4日も留守だったか勘違いしているのかもしれないが、一言でいうと、「楽しかった」この言葉につぎのかもしれない。

今、現地でひのきしんに合流して下さり、夕食を招待して下さった上原聡さんご家族にお世話頂いた大切なほやの最後の一切れを喉の奥にいくまで大切に食べた。潮の匂いがたまらなかつた。いろいろとお世話になりました。スコップ折ってごめんなさい。



少年会員、ひまわり会など様々な人達からのメッセージ入りの手作りふきん

談話室



兄の思い出

海松ヶ岡分教会宮地布教所

藤井光子

私は双子として生まれさせて頂きました。男と女の夫婦みよとこです。

72年前の昭和14年5月30日、母は背が低く、地に着く様な大きな腹をしていたと聞いています。今の様にエコーも無く「もう一人居る」と、慌てて産着を買いに走ったと聞いています。私が先に生まれ(四女)でガツカリされましたが、次は男の子で父が大喜びをしたと聞いています。

その頃は後から生まれた方が上に成り、兄と成った庄助(これからは庄ちゃんと呼びさせて下さい)、庄ちゃんは皆に可愛いがられ、甘やかされて育ちました。幼き時の甘えは、大きくなっても仲々直りません。(ちなみに主人も四歳ずつ離れた5人兄妹の末っ子です)。

月日が流れ私は大門へ、庄ちゃんは滋賀でそれぞれ結婚しました。父が夫婦子と言った通り、不思議な事に、私は佐藤から藤井へ、庄ちゃんの嫁

さんは藤井から佐藤へと……。庄ちゃんは息子と娘を、私は娘三人授かりました。私は娘を厳しく育てました。

1993年(平成5年)今から19年前の6月3日、朝6時、交通事故をおこしました。鎖骨が折れて肋骨3本にひびが入り、2ヶ月の入院で足も10日歩かれませんでした。ヘルメットは飛んで居たのですが、お陰様で頭は打っていませんでした。補償が良くて、4年半のリハビリに行かせて頂きました。お陰様で今はどこも悪くなくて、あざやかなご守護を頂きました。

同じ頃、庄ちゃんの嫁さんも事故に会い、目の焦点が定まらないと聞きました。そして庄ちゃんは離婚に……。私にも離婚の危機が……。

46年前、私が結婚する時に、父が主人の義母ははに「ゆき届いた躰はして居ませんが、元の家にお返します。娘として可愛いがってやって下さい」と言って呉れた事を思い出しました。父は私には「女は台だと教えたろ、台がぐらついていたら、柱がぐらぐらするのは当たり前だ」と。私は、離婚を思いとどまりました。

そこで運命が大きく変わりました。娘二人が嫁ぐ時、私も父と同じ事を言って、向こうのご両親に感激され、娘達も、向こうの両親を大切にして呉れて居ます。有りがたい事です。

さて、行く所の無くなった庄ちゃん。父の強い

希望と、天理に姉が居たと言う事で、詰所でお世話に成る事になりました。修養科、検定講習と教会長の資格……と、順調に。詰所の仕事を熱心にさせて頂いていたのですが、幼き時の甘えが所々に出ます。淋しさもあり、アルコール依存症になり、何回か救急車で運ばれました。

庄ちゃんに言った事が有ります。「みな様は、おぢばの風を感じ本部に帰って来られます。庄ちゃんはおぢばに住まわせて頂いて居るので、朝夕の本部のおつとめと所属教会への毎月の参拝を」と。「心をどこに向けるか」「心一つが我がの理」と聞いているよねと。その時は「ふんふんそうだな」と返事はして呉れますが、実行がともないません。

みかぐらうたの十下りの七つ
なんぎするのまこころから
わがみうらみであるほどに

このおうたを聞きますと、庄ちゃんの事を思い出します。そして2009年(平成21年)6月3日胃腸が見つかりました。一応手術はしたのですが肝臓、すい臓、肺に転移していました。35kgの体重でした。

その節は詰所の皆様にはご心配、ご迷惑をおかけして申し訳けございませんでした。そしてお世話に成りありがとうございます。又、天理に居る姉の介護にも頭が下がります。日に三度四度

と見舞って呉れた時も有り、私にはとても出来ません。ありがとうございます。

10月のある日、無性に庄ちゃんに会いたくなくて見舞いました。その時、最後と思い、来て呉れるかどうか分からないけど、娘さんにも連絡しました。その時の庄ちゃんとの時間は貴重なひと時となりました。口の重い人で「寝たのかな?」と思うとポツリと言います。その時、「光ちゃんは光輝く名前がいいなあ。僕は庄助と言う名は好きでない」と言った事は頭からはなれません。娘さんが来て呉れたのです。その時の庄ちゃんの嬉しそうな顔……。三人で色々話をし泣きました。娘さんも「お父さんを許す」と言って呉れた事が、庄ちゃんへの何よりの親孝行になりました。私もとても嬉しかったです。娘さんの手をずっと握っている庄ちゃん。仲々はなそうとしませんでした。

そして2009年(平成21年)朝6時、穏やかな顔で静かに出直しました。病気がわかり半年の命でした。庄ちゃんが出直した時は落ち込みましたが、一年祭も済み、昨年の12月17日、好きな百合の花を持ってお墓に参り「いつも見守ってくれてありがとう」

と御礼を言って、ふと空を見上げると、寒い中にもあたたかな風が一瞬吹いた様な気がして「庄ちゃんが喜んで呉れている」と感じました。

お陰様で今、私は優しい主人と娘達、息子達(娘婿)孫5人に囲まれて、日々を楽しく幸せに過ごさせて頂いています。有りがたい事です。

私のモットーで有る「足るを知る」「笑顔と感謝」で、無い命を救われて、庄ちゃんの分まで生かされて居るのだと、今、自分に出来る事を素直にさせて頂いています。ありがとうございます。

この短歌は、庄ちゃんが出直した、次の春に詠みました。

双子とし 生まれし兄が 身罷りて
彼岸に手向けし カサブランカの花

編集部 註

文中の佐藤庄助さんは長年詰所に勤務されました。

こころの詩

東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん
桜を愛でまた桜をめで 八十路ゆく
感謝の日にまた感謝なる

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

第854期修養科募集要項

*修養科期間

立教175年6月1日～8月27日

*教養掛

3ヶ月間	門脇元教	(大教会役員・島根分教会長)
1ヶ月目	丸山正人	(木津和分教会長)
2ヶ月目	浅野明教	(大教会准役員)
3ヶ月目	佐藤真孝	(芳井分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日午前10時に解散。

今年3月11日付、天理時報の時報歌壇に次の藤井光子さんの短歌が掲載されました。我もまた七十億の一人なり 日の出とともに起きて働く

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに 火水風の御守護を通して
天然自然のお働きや身体を御守護下さっております 中でも今は日
毎に寒さもやわらぎ 鶯の声やふきのとうが春爛漫の時が近いことを告げ
てくれているようで何かしら少し心浮かれる季節をお与え頂く等 日々は
結構に恙なく生活(くら)させて頂いております 誠には有難く勿体な
い極みでございます 私共は暑さ寒さも季節の又人生の味わいの一つと
しまして頂いておりますが やはり春が一番と喜び感謝の心も一入に朝夕
御礼申し上げると共に 日々は御恩報じを思い念じてひのきしんをい
がけ おたすけにと たすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いておりま
す

その中にも今日の吉日は三月の月次祭を執り行う日柄でございます
で 只今からおつとめ奉仕人一同 今日の日を楽しみに寄り集いました道
の子供達のお歌の唱和と共に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを
つとめさせて頂きます 御前に打ち揃いご恩報じの思い一条につとめる一
手一つの状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い
申し上げます

さて一月には直轄教会へ大祭参拝し二月三月と部内教会へ巡教をさせ
て頂きました 改めて教祖百三十年祭に向けての成人の歩みを確認し合
いおつとめの手を揃える事の大切さを心にききさみ 一人一人がおつと
め奉仕人増員の思いを高め合って 真柱様に御揮毫頂いた「一手一つ」の
心で成人の歩みを進めていく所存でございます 又よぶべく三信条とお示
し頂いております「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」
を日々の心の指針としてよぶべくらしいよぶべく目指してたすけ一条に
邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には「世界一列救いたい」との親心に少しでもお応えした
いとたすけ一条に心尽くす皆の誠実の心をお受け取り下さいまして
万たすけの上に自由の御守護を賜り おつとめ奉仕人が増殖してお望み
下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程
を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十五年 三月月次祭 祭典役割割表

祭主		大教会長様
扨者		岡崎和夫 門脇元教
講話		杉原博之
五月講話		縦の伝道講習会
賛者		山野弘実
指図方		山田敏教 上原繁道
役割区分	坐り勤	吉岡壽 田中隆之 田林久嗣 大教会長様 岡本久善 上原繁道 大教会奥様 田中ますみ
	前半	岡本久善 岡崎真一 浅野明教 佐藤道孝 岡崎和夫 門脇元教 佐藤香苗 岡崎豊子 門脇加津
後半	中村邦義 谷内伸自 森本忠善 中村剛 杉原博之 谷内美知子 高木孝子 中村初美	
地方	笛	中村義太郎
	ちゃんぽん	河原節喜
	拍子木	中村道徳
	太鼓	三島渉
	すりがね	上原澄雄
	小鼓	上原志郎
	琴	今川佐智子
	三味線	上原順子
	胡弓	虫明好美
区分	坐り勤	吉岡壽 田中隆之 田林久嗣 大教会長様 岡本久善 上原繁道 大教会奥様 田中ますみ
	前半	岡本久善 岡崎真一 浅野明教 佐藤道孝 岡崎和夫 門脇元教 佐藤香苗 岡崎豊子 門脇加津
	後半	中村邦義 谷内伸自 森本忠善 中村剛 杉原博之 谷内美知子 高木孝子 中村初美
	笛	中村義太郎
	ちゃんぽん	河原節喜
	拍子木	中村道徳
	太鼓	三島渉
	すりがね	上原澄雄
	小鼓	上原志郎
琴	今川佐智子	
三味線	上原順子	
胡弓	虫明好美	
笛	中村義太郎	
ちゃんぽん	河原節喜	
拍子木	中村道徳	
太鼓	三島渉	
すりがね	上原澄雄	
小鼓	上原志郎	
琴	今川佐智子	
三味線	上原順子	
胡弓	虫明好美	
笛	中村義太郎	
ちゃんぽん	河原節喜	
拍子木	中村道徳	
太鼓	三島渉	
すりがね	上原澄雄	
小鼓	上原志郎	
琴	今川佐智子	
三味線	上原順子	
胡弓	虫明好美	

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の御霊 初代真柱様並びに奥様の御霊 二代真柱様の御霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊 初代会長上原さと刀自の御霊 二代会長上原伊助大人光刀自の御霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊 四代会長上原郁雄大人の御霊 明治の時より歴代会長と共に道の上に御苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の御霊 諸々の御霊の前に 会長上原理 一 慎んで申し上げます

祖霊様方には夫々の心に句を得て 親神様教祖にこの道に引き寄せられ 陽気ぐらし建設の為のよふぼくとして生きの限りにたすけ一条の御用の上に勤め切られました 加えて「ひながた通らねばひながたいらん」とのお言葉通り 敢えて艱難苦勞の道を歩んで下さいました 今日お道は結構な姿をお見せ頂いておりますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜物である事は申すまでもございませぬが 又一つには祖霊様方のそうした真実の伏せ込み理作りの賜物と 日々は朝夕にお礼申し上げると共に 親々の意思を受け継ぎ 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

分けても本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 御前に海川山野心づくしの種々の物を供え 有りし日の面影を偲び御遺徳を称えたいものと 只今はおつとめ奉仕人並びに部内教会長代表の者一同勇んでてをどりをつとめさせて頂きました 又昨年十一月三十日真柱様ご夫妻のお入り込みを賜り 一千三百人余りの参拝者を御守護頂いて賑やかに創立百二十年記念祭をつとめる事が出来ました 日頃のお力添えに改めてお礼申し上げます 誠に有難うございます

今私共は四年後の教祖百三十年祭に向けて全教会でのおつとめ奉仕人増員を目標によふぼくらしいよふぼくに成るべくたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

何卒祖霊様方には 句の理を生かし届かぬながらも精一杯に成人の道を歩む皆の真実の状を御覧下さいまして 一人でも多くのおつとめ奉仕人を御守護頂けますようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十五年 春季霊祭 祭典役割表

祭主	大教会長様	賛者	浅野明教
扈者	中島誠治	指図方	内海史郎
	岡崎真一		岡本久善

役割	区分		地 方	おつとめ てをどり	笛	ちゃんぼん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓
	前 半	後 半											
	中村邦義	香地華分教会長	山 野 弘 実	大教会長様	今川昌彦	岡崎輝彦	門脇元教	杉原博之	内海史郎	上原浩	虫明好美	岡崎豊子	門脇加津
	谷内伸自	田林久嗣	大教会奥様	上原繁道	福輝分教会長	行藤分教会長	中村義太郎	三郡分教会長	田中隆之	葦沼分教会長	福廣分教会長	谷内美知子	佐藤香苗
	岡本久善	安那分教会長	大教会奥様	上原繁道	中村初美	武内正美	菅尾一美	吉舍分教会長	大江橋分教会長	大教会奥様	岡本久善		

<布教部>

○本部食堂ひのきしん

期間 5月1日～15日 西ブロック

<詰所掛>

○帰参者名簿—住所、氏名、年齢を記入して下さい。

<青年会>

○おやさとふしん青年会ひのきしん隊(6月隊)

(7ページポスター参照)

期間 6月1日(金)～24日(日)

入隊資格 16歳以上で24日間つとめられる健康な男子

内容 おやさと各所でのひのきしん・修練・にをいげ・感話大会等

携行品 着替えなどの日用品・保険証・カッターシャツ・ネクタイ・スラックス

宿舎 第百母屋(天理市豊田町)

○月例活動日

・5月20日/6月24日/9月23日/10月14日/11月23日/12月26日
いずれも日曜日

<少年会>

○教会おとまり会について

・平成23年下半年(10月～24年3月)に実施した教会は報告書(別紙配布)を提出して下さい。

○こどもおぢばがえりについて

4月20日要項配布 昨年と行事内容に変更あり。

○縦の伝道講習会

期日 5月21日(月) 大教会5月月次祭神殿講話に代えて

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教175年3月12日終講
大江橋 松本武夫

◎本部食堂ひのきしん

自 立教175年2月16日
至 立教175年2月29日
稲 讚 高橋竜二



教会の庭に白梅、紅梅が見事に咲いて香りを一杯に発散しています。今年は寒さが続いたせいか開花が随分遅れました。その中に椿が妍(げん)を競うように咲き始めました。椿も赤色と白、赤白の交じったのが眼を楽しませてくれます。万両の花も赤と橙の実を一杯に咲かせています。気疲れする仕事を終えた後「疲れたなあ……」と思うとき、咲きわたる花々が心を癒してくれるのです。鉢植えの可愛い花達もいいもんです。白、ピンク、紫の桜草。黄、白、紫、オレンジのパンジー。チューリップも芽を出し始めました。花のことを書いているだけで心に「ぽっ」と小さな灯りが点くように思います。老の進みと共に花を愛でる思いが進んできました。私も庭の花や鉢植えの可愛い花のように「人に愛され心を和ませること」が出来たらいいなあ……と夢を見るのです。若き時も老いを増しても夢はかなうまで持ち続けられるもんなやなあ。